



常磐橋そばの日本銀行本店へ

本店の建設と日本橋川による資材搬入

日本銀行は開業準備の際、適当な場所を探し、まず日本橋川河口、日本橋区北新堀町（箱崎町）の北海道開拓使の建物を利用して開業しました。しかし東京の中央から外れており、当初から中央に新築の地を求め、探していました。1885年に、同じ日本橋区の本町一丁目（現・本石町、現在の地）に移転することが決まりました。土地の購入を三井組に託し、1890年に着工、1896年に竣工し、移転しました。



落成式の日本銀行本店とその資材を運んだ日本橋川

「日本銀行落成之図」篠原清興 1896年 900054

手前に描かれた日本銀行本店西側の日本橋川は、日本銀行本店建築にあたり欠かせない要素であった。石積・煉瓦造の日本銀行本館は、石材や煉瓦など膨大な資材が各地から水運で運ばれ、東京湾を遡り、日本橋川（外堀）常磐橋脇から荷揚げされた。



岡山県から運ばれた一本石

2・3階を貫く。長さ約5.5m



日本橋川で運ばれた岡山県産花崗岩で飾られた窓

「大日本帝国日本銀行全景」三代歌川国貞 1896年 900051

日本銀行本館の2・3階の窓周りを飾るコリント式一本石の柱、地下・1階の外壁に使われた花崗岩は、岡山県北木島から水運により運ばれ、最後は日本橋川の常磐橋近くで荷揚げされた。この錦絵では柱に継ぎ目があるが、実際には一本石である。

花崗岩の石切り場（岡山県北木島）

本館は石積煉瓦造りで、そのうち1階の外壁、1～3階の窓枠等の装飾石は岡山県北木島から、水運を使って運ばれた花崗岩（北木石）が使われている。



この錦絵では柱に継ぎ目があるが、実際には一本石である。



日本橋川よりみる建築中の日本銀行

辰野金吾による日本銀行本店本館は、岡山県産の花崗岩をはじめ、大量の石材と煉瓦を用いた石積・煉瓦造で、日本橋川でそれらを建築用地そばまで運べたため、可能となった建築でした。

護岸を資材置き場として一時借用もしており、川辺の地であったことが、新築移転の地としての重要なポイントでした。新築工事も併せ、日本銀行が常磐橋東側の護岸工事も請負っていました。



『東京景色写真版』1893年頃か NDL 蔵



日本橋川（外堀）より建築中の日本銀行遠景（部分拡大）

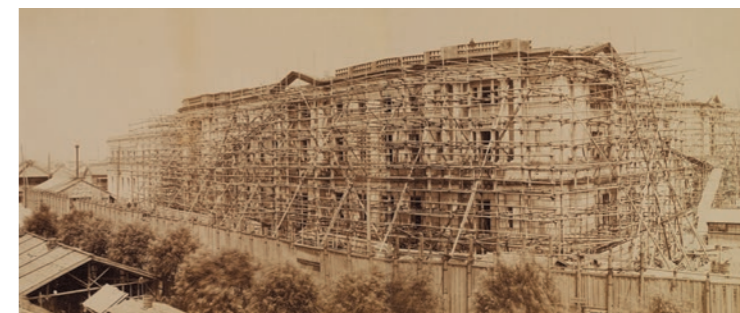
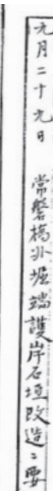
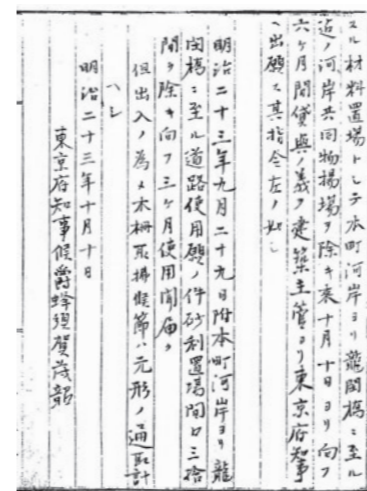
建築段階から、1892年（もしくは1893年前半）頃の写真と考えられる。



川沿いの資材置き場

敷地から道を挟んで日本橋川沿いに小屋があった。日本橋川から資材を荷揚げ後、保管・加工等を行った。

小屋の下に職人達がカメラの方向を見ている。



1895年8月 日本銀行建築記録写真

上部写真の全体写真

日本銀行アーカイブ 蔵

当初は護岸石垣改造用の材料置場として本町河岸より龍閑橋までの道路を一時借用

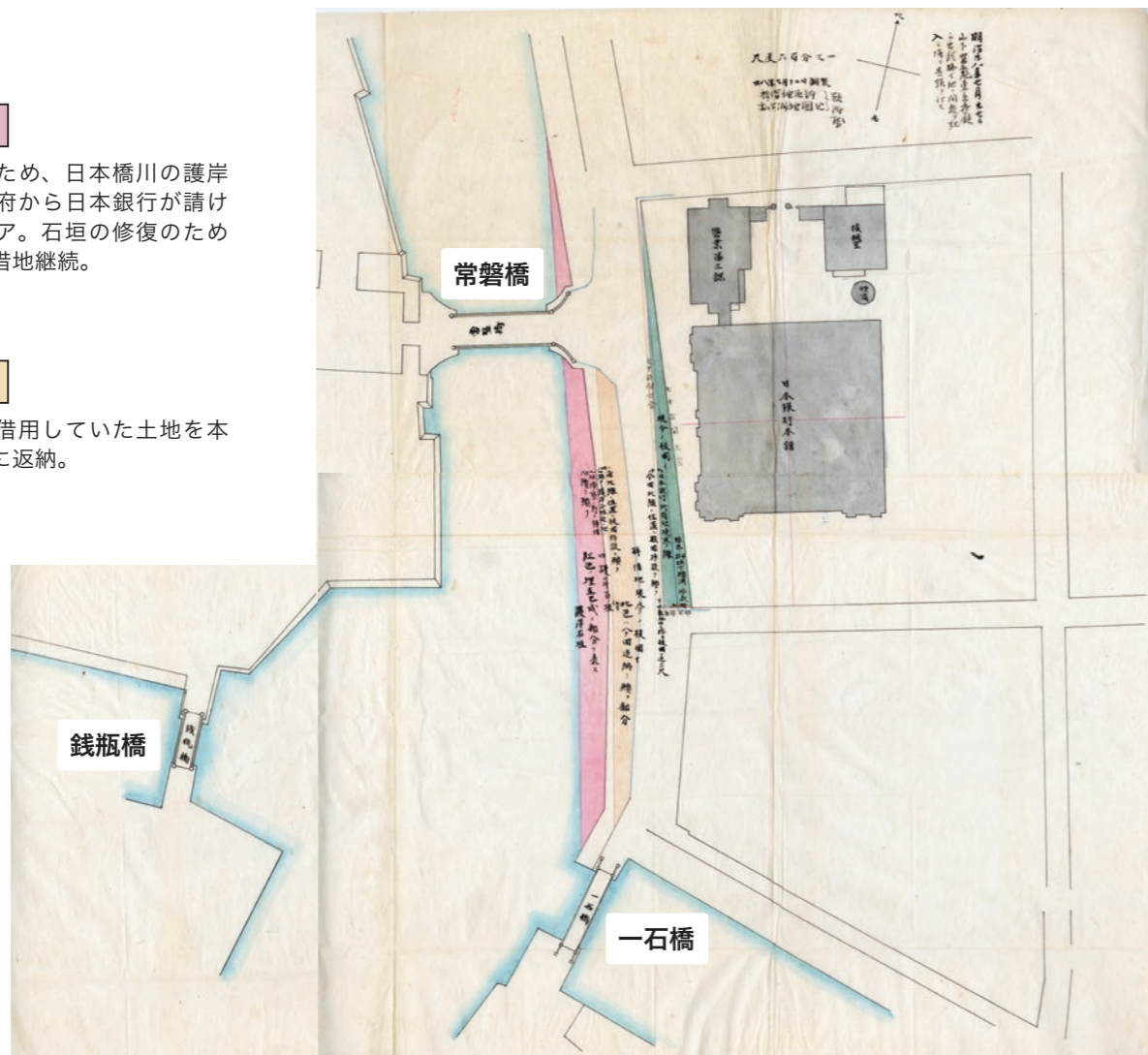
「建築事項第一回報告草案」1891年より 日本銀行アーカイブ 蔵

日本銀行新築工事時 1890 年～ 常磐橋東側護岸・道路改造工事関係図面

日本銀行本店新築の着工当初から、東京府の意向により、常磐橋東側の日本橋川の護岸の位置を変更、道をまっすぐにし、拡幅する工事が進められた。

道幅拡幅のため、日本橋川の護岸工事を東京府から日本銀行が請け負ったエリア。石垣の修復のため東京府から借地継続。

東京府から借用していた土地を本館竣工の年に返納。



『本店地種組替認可書』1896年より 日本銀行アーカイブ 蔵



日本銀行が行った日本橋川（外堀）の護岸・道路工事

日本橋川沿いの道幅を広げるため、道路を一部埋立て、日本橋川の護岸（石垣）を整備する工事を、日本銀行本店の新築工事に合わせ行った。



『辰野記念 日本銀行建築譜』1928年より

日本橋川に面した日本銀行本店・西正面

日本銀行本店は、南側だけでなく、日本橋川（外堀）の先に皇城（皇居）がある西側も、正面として設計されたと考えられる。西側も南側同様シンメトリーにデザインされ、西側中央ペディメント下の2階に貴賓室が、1階には西玄関があった。竣工時の総裁室は西南の角に位置し、西側窓から日本橋川を望むことができた。

写真でみる水辺の日本銀行

日本人建築家による初の国家的近代建築である「日本銀行本店」、その並びの近代建築、手前を流れる日本橋川の風景は新しい名所となりました。壮大な国家的近代建築と旧江戸城外堀としてつくられた石垣や行き交う舟の新旧のコントラストが人々を魅了し、その風景は、さまざまな角度から撮影され絵はがきにもなりました。



日本銀行と外堀の石垣、日本橋川

日本銀行の上部屋根や手すり、竣工当初は銅の茶色であったことが分かる着色絵はがき。右端の建物は日本銀行南分館（設計：辰野金吾・関野貞、竣工：1898年）。



一石橋、日本橋川と4棟の辰野金吾建築

右端に一石橋。静岡出身の書業の差出人が日本銀行（1）と（2）などと建物を図示して解説している。（一部誤りとみられる記述もある）建物はいずれも辰野金吾による設計で、右から東京火災保険株式会社（竣工1905年）、横浜正金銀行東京支店（日本銀行南分館<竣工1899年>を貸与）、日本銀行本館（1）、日本銀行西分館（2）<竣工1896年>。

『舊金座址の日本銀行』

中央には江戸時代以来の川舟と船頭、日本橋川、そして近代建築の日本銀行のコントラストを捉えた1枚。



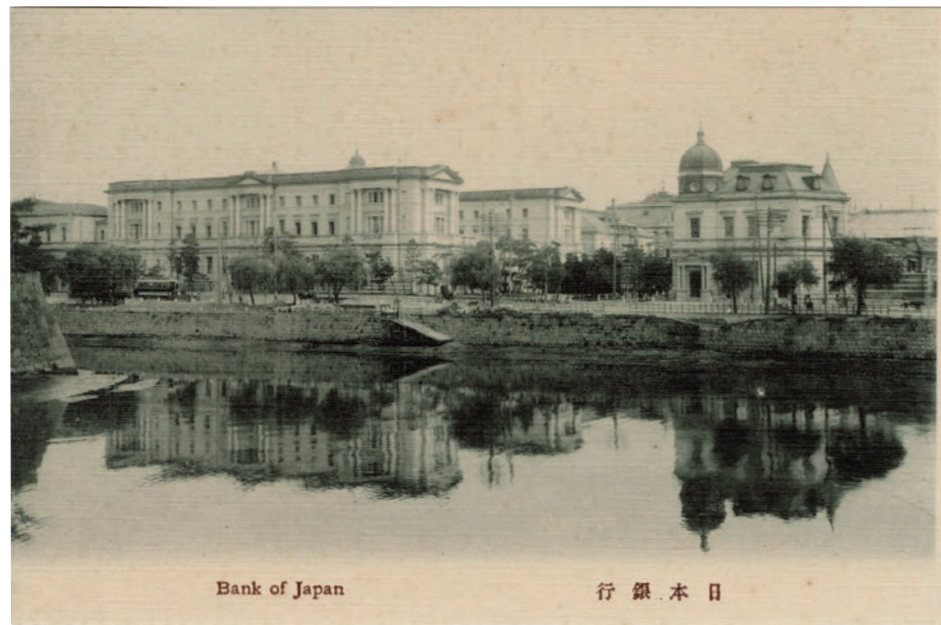
日本橋川の舟運と新しい交通

1904年日本橋川・外堀沿いに路面電車（外濠線）が開通した。当初、日本橋川（外堀）沿いに、神田橋-龍閑橋-常盤橋-呉服橋と日本橋川の橋名の電停が続いたが、後に「常盤橋」電停が「日本銀行前」に改称された。



日本橋川からみた日本銀行と並ぶ三井本館

日本銀行本館の奥（東側）に三井本館（設計：横河民輔、鉄骨煉瓦造、竣工：1902年）が見える。



日本橋川の水面に映る日本銀行本館

首都高速道路や外堀通りの拡幅などで、現在は見るのできない光景。



日本銀行そばの舟付場と利用する舟



常磐橋遠景と日本橋川を行き交う舟

岡山から舟で運ばれた花崗岩着色による強調

北木島（岡山県）から運ばれた花崗岩（北木石）は、日本銀行本館地下・1階の外壁と2・3階の窓装飾に使われ、竣工当初白く輝いていたという。この絵葉書では、当該部分と、2・3階外壁の白丁場石（黄色部分）を着色で分けている。





面方町田須及行銀本日金正井三越三橋本日ルタ見リヨ上機

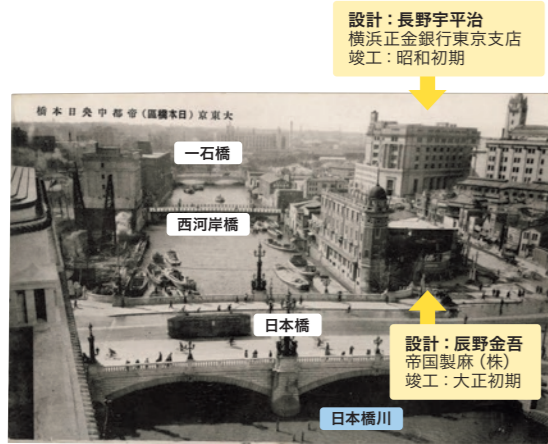
日本橋と日本橋川 首都高架橋前



面方町田須及行銀本日金正井三越三橋本日ルタ見リヨ上機

にちぎん前の常磐橋

日本銀行本店が本石町に完成した明治中期以降、街の様子はさらに変化を見せていきました。常磐橋は江戸時代から場所を変えることなく、移りゆく時代の風景のひとつとして人々にとらえられていました。

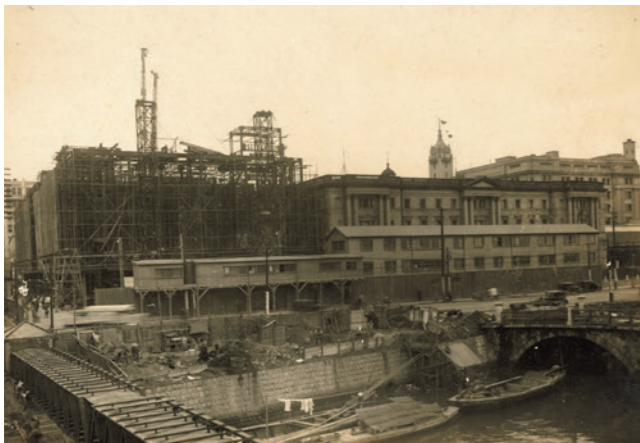


設計：長野宇平治
横浜正金銀行東京支店
竣工：昭和初期

設計：辰野金吾
帝国製麻(株)
竣工：大正初期



日本橋川

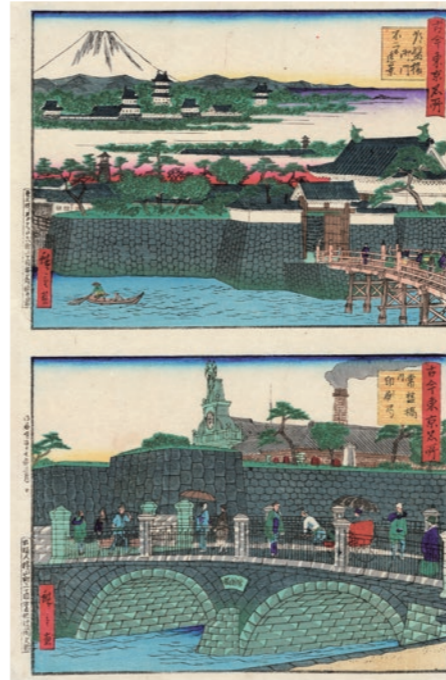


昭和初期 日本銀行増築時の工事と護岸・常磐橋の風景



一石橋を渡る路面電車と日本銀行

絵はがきはいずれも個人蔵



常磐橋の移り変わり

「古今東京名所（常盤橋御門不二の遠景・常盤橋内印刷局）」
三代歌川広重 1884年 901628

江戸時代（上）と明治時代（下）の常磐橋を描いたもの。下段は1877年に架け替えられた石橋で、明治時代の石橋としては都内に現存する唯一のもの。奥に1876年竣工の大蔵省印刷局が描かれている。



印刷局

1876年竣工
設計：ウォートルス、ポアンヴィル
『明治大正建築写真集』1936年より NDL蔵



『幕末・明治・大正回顧八十年史』より NDL蔵

江戸時代の常磐橋

1590年架橋

橋名の由来

- ①『金葉和歌集』の一節から取ったもの
- ②松平（徳川の旧姓）の松の常緑＝常磐を祝ったもの



『印刷局研究所調査報告』
1911年より NDL蔵

明治時代の常磐橋

1877年架橋

花崗岩でできた石造アーチ



日本銀行と日本橋川の風景

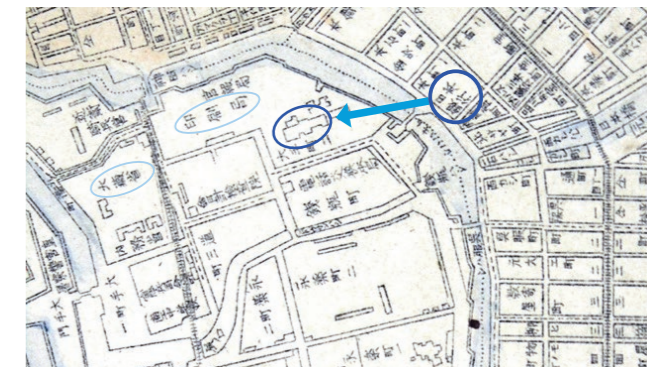
『東京名所 日本銀行之図』薔齋 1898年 個人蔵

江戸時代の主要な運送方法であった荷舟が、日本橋川を上流へと向かっている。日本銀行本店本館の左に描かれている建物は、本館と同時期に建設された西分館である。



日本橋川西側 大手町・大蔵省印刷局

1895年8月撮影「日本銀行新築場沿革図」より 日本銀行アーカイブ蔵



←写真の方向

『市郡変称東京全図』（部分）1903年再版 1904年成



明治後期の日本橋

「東京名所 日本橋之図」 齋藤 1898年 個人蔵
現在の日本橋駅方面から室町（三越前駅）方面を描いたもの。橋の中央には鉄道馬車*が走っている。街の様子が近代化していく中で、魚河岸で荷揚げされた魚を運ぶ江戸時代からの風景も見られた。
*鉄道馬車：1882年 新橋-日本橋間で開業。



日本銀行側から見た常磐橋

「常盤橋」1915年 901581
大正時代の版画で、日本銀行本店西側から見た風景である。1877年に架橋された常磐橋と、その奥に1876年竣工の大蔵省印刷局がある。道路には1904年に開通した外濠線(路面電車)の線路が引かれている。

大正期の新設・常盤橋と一石橋



1926年架橋：常盤橋（新設）

震災復興事業で、明治初期に架橋された常磐橋はそのままに、若干下流に架橋された。



1922年架橋：一石橋

南詰西側の親柱は現存
それまで木造であったがコンクリート造となった。

日本橋と祭りの風景

日本橋川周辺では、江戸時代から地域や職業と結びついた祭礼が行われました。錦絵には神輿や山車などの行列が日本橋を渡り、多くの人々にぎわっていた当時の様子が描かれています。



魚河岸の祭り

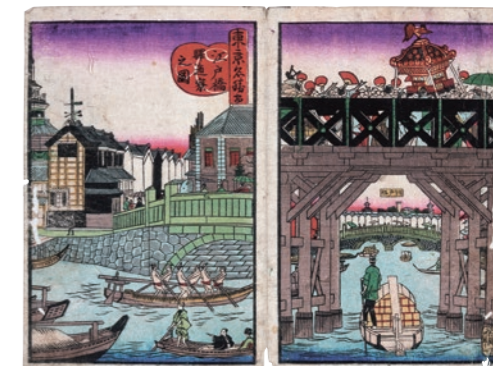
「日本橋魚がし旧天王祭団扇投之図」 春斎年昌 1889年 900182
「小舟町天王祭」のにぎわいの様子が描かれており、魚河岸の辺りを練り歩く神輿に、人々がおひねり（銭）や団扇を威勢よく投げている。小舟町は江戸橋から北に入った堀の沿岸にある町で、鯉節などの乾物を扱う問屋や河岸があった。

日本橋の天王祭

天王祭とは、牛頭天王（素戔鳴尊）を祭神とする祭礼である。日本橋付近の地域では南伝馬町（一ノ宮）、大伝馬町（二ノ宮）、小伝馬町*（三ノ宮）の3ヶ町がそれぞれ宮元をつとめたことから「三天王」と呼ばれた。

*三ノ宮の宮元はのちに小舟町に変わった。

日本橋を渡る神輿



「東京名勝尽江戸橋駅通寮之図」 三代歌川広重 明治時代前半 900227
右の絵は神輿が渡御しているところで、祭りでにぎわう町の様子が描かれている。
左の絵には江戸橋と、その袂にあった駅通寮（実際は白色の建物）が描かれている。左端に少し見えるのは第一国立銀行である。



「東京開華名所図繪之内日本橋須賀の神社渡御」 三代歌川広重 明治時代前半 900231
日本橋を須賀神社の神輿が渡御の様子が描かれている。須賀神社は南伝馬町（現在の京橋1～3丁目）にあった神社で、天王祭で有名である。

日本橋の太子講行列

「聖徳太子御開帳諸職人出迎之図」 梅堂国政 1875年 900399
職人の祭り「太子講」の行列が日本橋を渡って室町方面へとねり歩く様子が描かれている。聖徳太子は大工や左官など職人たちの守り神とされ、日本橋付近でも信者の集まりである「講」が形成された。



常磐橋？常盤橋？ 石 or 皿？

現在は、明治時代にできた石橋を「常磐橋」、大正時代にできたコンクリートの橋を「常盤橋」としている。
資料によっては現在の「常磐橋」の場所にあった橋についても「常盤橋」が使われているものもある。



明治時代架橋の常磐橋



大正時代架橋の常盤橋



「東京真画名所図解」にみる日本橋周辺の風景

明治時代の版画家 井上安治はシリーズ「東京真画名所図解」の中で、日本橋川周辺の風景を描いています。



鍛冶橋遠景 901644

鍛冶橋は日本橋川（外堀）の鍛冶町に架かる。1877年に石橋となった。



四日市 901643

四日市町は日本橋から江戸橋の南側に続く町。右側には三菱会社の煉瓦造りの倉庫が描かれ、左の白い建物は駅通局である。

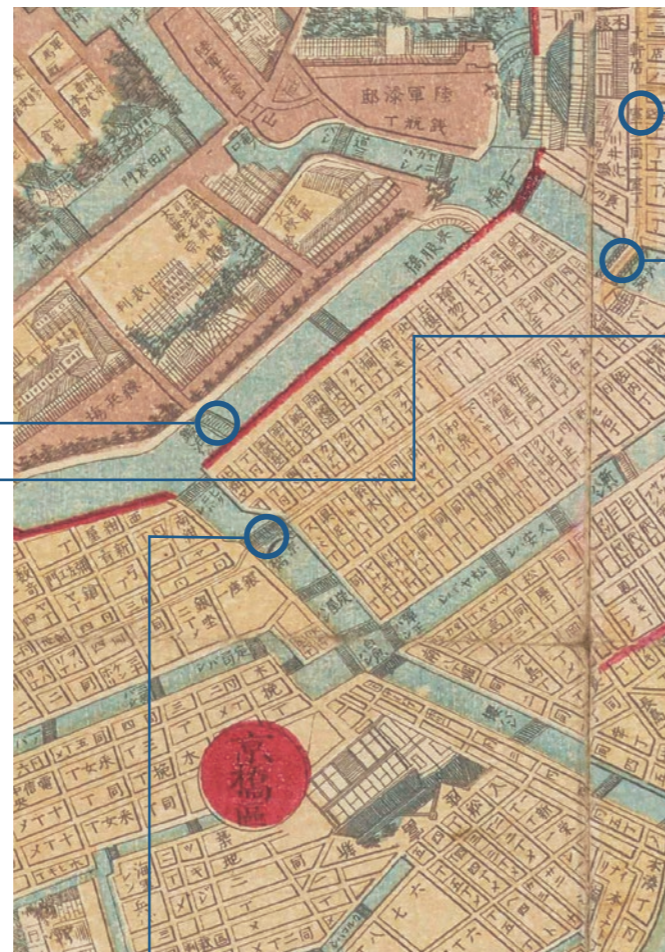


京橋 901645

京橋川に架かる橋で、1875年に石橋となった。京橋川は外堀から八丁堀に繋がり、両岸には日本橋川と同様に河岸が設けられた。

井上安治 (1864-1889)

別号は探景。小林清親を師とする。「東京真画名所図解」は1881年から描き始められたものである。



『改正東京全図』部分



駿河町夜景 901641

町名は、通りから江戸城越しに駿河の富士山が見えたこと由来すると言われる。手前左に描かれているのは三井越後屋、その奥に見えるのは三井銀行の陰影。



日本橋 901640

江戸橋方面から日本橋を描いたもの。左手は、三菱会社によって建てられた四日市町の煉瓦造りの倉庫が描かれている。



江戸橋之景 901642

江戸橋は、日本橋川で日本橋よりも一つ下流に位置し、1875年に石橋となった。江戸橋から日本橋方面を描き、魚河岸に多くの舟が停泊している。



海運橋 901647

海運橋は楓川に架かり、1875年に石橋となった。橋の奥には第一国立銀行の陰影が描かれている。



鎧橋 901648

かつて「鎧の渡し」と呼ばれた舟渡場があった場所。1872年に木橋、1888年には鉄橋が架けられた。左の高い建物は第一国立銀行、右の煙突がある建物は洪沢栄一郎。

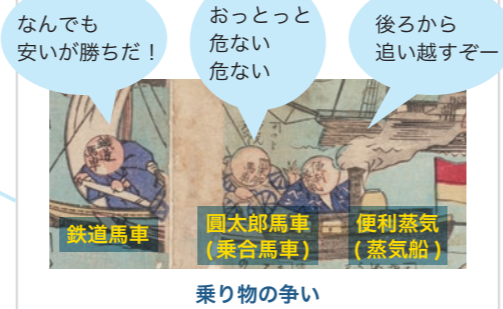
明治期 蒸気船の風景



郵便汽船三菱会社のマーク



共同運輸会社のマーク



明治時代に登場したモノと昔からのモノとの船漕ぎ競争

「泰平海世直競漕」明治時代前半 900564
明治時代に入ると、錦絵の中でも鉄道や蒸気船など、文明開化を象徴するものが多く描かれた。郵便汽船三菱会社と共同運輸会社の価格競争を中心に、明治初期に登場したモノと昔からのモノの競争等を船漕ぎに風刺して描いている。3枚続きのうちの2枚で、中央は、三菱の蒸気船の下に鉄道馬車・乗合馬車（「圓太郎馬車」）・蒸気船（「便利蒸気」）。左下には、沈みそうな江戸時代の天保通宝と、船の上の金銀貨・紙幣が描かれている。



両国の発着所に到着する蒸気船「通運丸」 「東京両国通運会社 川蒸気往復盛栄真景之図」1884年 900260
蒸気船「通運丸」の、両国の発着所の様子を描いた錦絵。右建物の軒先には、発着所の河岸名が書かれた木札がかかっている。通運丸は1877年、内国通運会社（現在の日本通運株式会社の前進）により就航。東京～銚子（千葉）、東京～生井河岸（栃木）までの航路など、多くの航路が設けられた。

水辺に建てられた大阪・造幣局

造幣局（造幣寮）はイギリス人ウォートルスの設計・監督のもと、大阪に建設された。広大な敷地の確保が可能で、淀川の下流部分にあたる大川に隣接し、水運の中心であったためこの地が選ばれたといわれている。造幣局は1871年に創業し、のちに造幣寮となったが、1877年に再び造幣局と改称した。

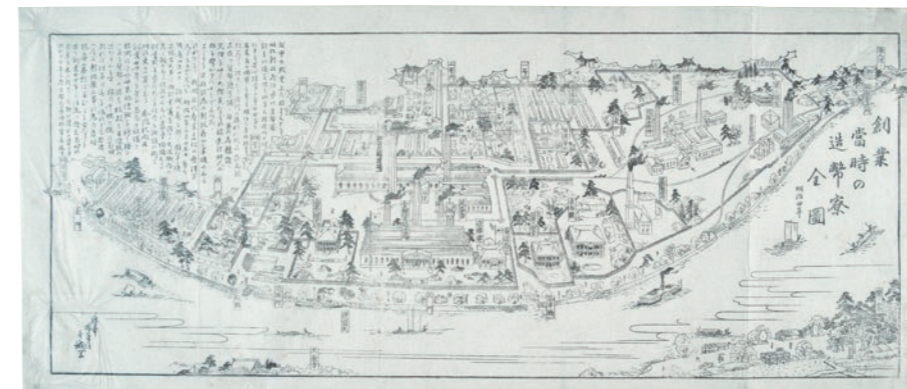


水辺につくられた造幣局

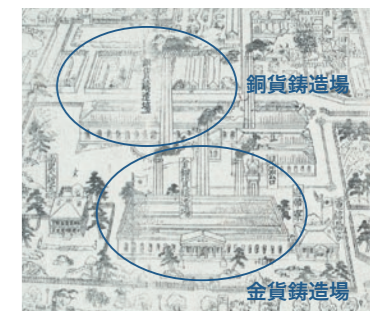
「浪華川崎造幣寮河下より望図」松川半山 1872年 900009
設計・監督：ウォートルス
対岸から造幣局を望む絵。蒸気船や和船が行き交う様子も描かれている。



蒸気船や様々な船が行き交う造幣局の川辺
「京坂名所図絵 大坂河崎造幣寮之図」野村芳国 1885年 900016
夜の造幣局前で、様々な船が大川を行き交う様子を描いた錦絵。淀川流域は古くから大阪の交通・物流を支える重要な場所であった。明治初期には蒸気船（外輪船）を通すため、水路を曲げ水流をゆるやかにしたり、水深を深くするための工事が行われた。



創業当時の造幣寮全図明治四年 豊誠写 1941年 900038
造幣局の創立70周年を記念し、描かれた絵図。創業時の建物の配置が表されている。絵の中央には「金銀貨鑄造場」、その左には「銅貨鑄造場」の文字がみえる。



部分拡大

水辺に建てられた日本銀行大阪支店



堂島川大江橋と日本銀行大阪支店



川に挟まれた日本銀行大阪支店（中之島）

竣工：1903年（外観のみ現存）
設計：辰野金吾
1882年12月 開設（現・中央区今橋）
1903年 中之島へ移転